

近代と文藝

空穂が見た
明治の文学運動

令和7年9月5日(金)

— 10月27日(月)

Modern Times and the Literary Arts

2025 最新収蔵資料公開展

開館時間：9：00～17：00（入館は16：30まで）

休館日：火曜日（休日の場合は翌日）

会場：窪田空穂記念館

入場無料

文学へのあこがれ
短歌という文芸
『山比古』と歌集『まひる野』
独歩社と博文館『文章世界』
明治三十九年の文学ムーブメント
我が文学を求めて
最新収蔵資料公開展

近代と文藝 空穂が見た明治の文学運動 最新収蔵資料公開展 2025

文学史において、明治という時代は国家の近代化と共に、それまでとは全く異なる文学が生み出されてきた時代です。多くの文士たちが新しい時代にふさわしい文学を生み出そうと彫心鏤骨するなかで、「文豪」と呼ばれる大作家たちが文壇に登場し、綺羅星の如く活躍したまさに「文学熱の時代」でした。

明治10年(1877)生まれの歌人・窪田空穂も学生の頃から文学に親しみ、雑誌『明星』の主宰で短歌の革新を唱えた与謝野鉄幹に歌の才能を見出され、22才の時に上京します。東京専門学校(現・早稲田大学)卒業後は新聞記者、雑誌編集者として活動しながら短歌や新体詩、小説を文芸雑誌で発表するなど、文筆の世界に身を置きました。大正9年(1920)に母校の早稲田大学に奉職するまでの約20年間、ジャーナリストとして過ごし、様々な文士たちとの交流を通じて、空穂が何を見て、何を吸収し、己の文芸を求めていったのかを探る展覧会です。

また、「最新収蔵資料公開展2025」を同時開催し、近年当館に収蔵した資料を公開します。



「明治時代の短歌革新者」
自筆原稿
昭和16年頃



歌集「まひる野」
窪田空穂 鹿鳴社
明治38年



歌集『明暗』
窪田空穂 金曜社
明治39年

担当学芸員によるギャラリートーク

① 9月20日(土) 14:00～15:00

② 10月4日(土) 14:00～15:00

※各回申し込み不要

くぼたうつほきねんかん
窪田空穂記念館

〒390-1242 松本市和田 1715-1

TEL (0263)48-3440 FAX (0263)48-4287

E-mail: utsubo@city.matsumoto.lg.jp